

『北朝鮮満州輯安縣遺物遺跡写真』撮影地

- 1 海州郡・神光寺・石潭書院 2 鎮南浦・真池洞駅・龍岡郡 3 平壤府 4 郭山郡
- 5 輯安縣・好太王碑・將軍塚 6 牙得嶺・長津郡 7 黃草嶺・千佛山開心寺・德安陵
- 8 咸興郡・定和陵・義陵・咸興本宮 9 定平郡 10 永興郡・璿源殿・永興本宮
- 11 梁泉寺・文川郡・望徳山城址 12 智陵・元山府 13 安辺府・釈王寺 14 高山驛
- 15 三防 16 鉄原郡

解 説

『北朝鮮満州輯安縣遺物遺跡写真』は、京都大学考古学研究室が所蔵する計 287 枚の写真である。本資料については、京都大学に留学中であった金奎運（現・大韓民国江原大学校）・張祐榮（現・大韓民国慶州文化財研究所）に依頼して、基本的な目録を作成した。その結果、本資料が関野貞・谷井済一・栗山俊一・今西龍らによって行われた、大正二年度朝鮮古蹟調査時に撮影された写真であり、大韓民国国立中央博物館に所蔵されているガラス乾板目録とある程度まで対応させることができることを確認した。その後、大韓民国・国外所在文化財財団の調査支援事業「今西龍考古資料の総合的整理研究」と、日本学術振興会の課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業「逸失の危機にある文化遺産情報の保全・復元・活用に関する日・欧・アジア国際共同事業」の支援を受け、写真のデジタル化、メタデータの作成、および関連資料との比較検討を進めた。ここでは、この間の検討をもとに、本資料の概要と学術的意義について解説する。

カード・写真の概要

各焼付写真は 12cm×16cm をはかり、19cm×29cm 大のカードに四隅を差し込んで固定されている。各カードには番号が印字されており、空白部分に写真の説明が書き込まれた例がある（下の写真 106 カードを参照）。287 枚のカードは 70～80 枚ずつに分けられ、『北朝鮮満州輯安縣遺物遺跡写真』と書かれた 4 冊の帙に収められていた。

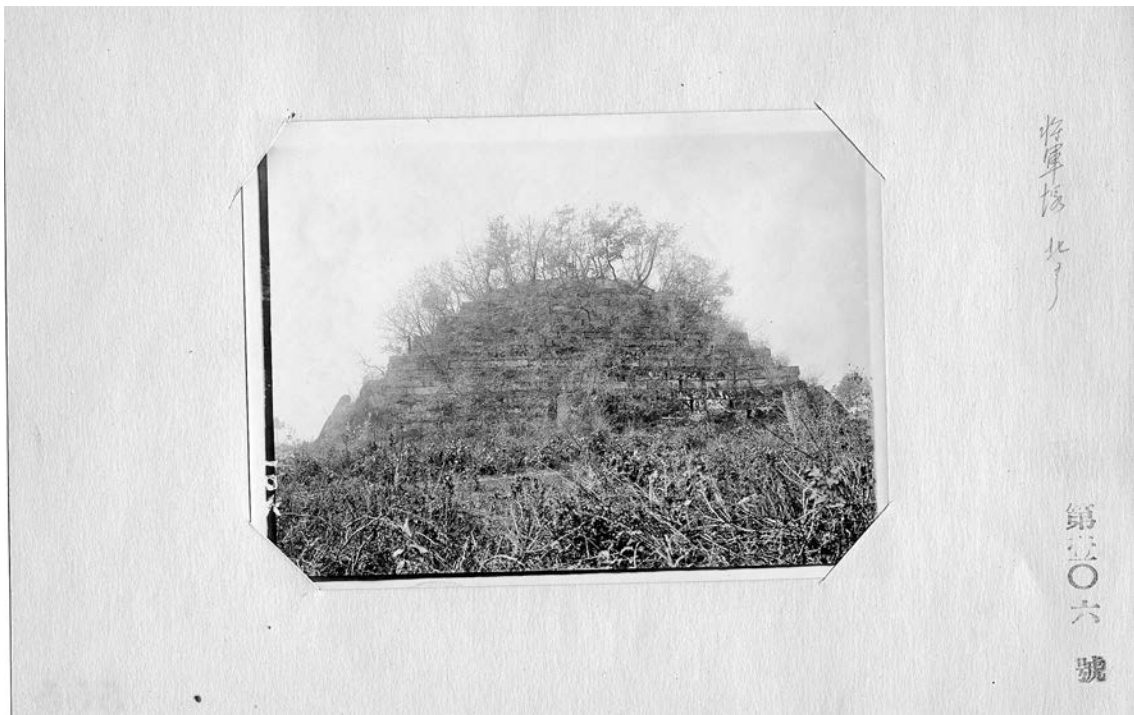


写真 106 カード（写真左下の番号、カード右下に押印された番号、右上の書込に注意）

写真の中には、ガラス乾板に書き込まれた番号が読み取れるものがあり、それらは各カードに付された番号と一致する。また、大正二年朝鮮古蹟調査略報告に添付された「大正二年撮影朝鮮古蹟写真目録」（以下、「大正二年写真目録」と呼ぶ）（早乙女 2007）の番号および内容や、国立中央博物館に所蔵されているガラス乾板目録（以下、「ガラス乾板目録」と呼ぶ）（国立中央博物館 1997）の内容と対応させることができる。これらのことから、本資料を構成する写真カードは、大正二年度の朝鮮古蹟調査時に撮影されたガラス乾板の焼付写真を、朝鮮総督府に提出された写真目録に従い整理・作成されたものであると判断される。これらの写真を京都大学考古学研究室が収蔵するに至った経緯ははっきりしないが、大正二年度朝鮮古蹟調査に参加した今西龍がもたらした蓋然性が高い。

「大正二年写真目録」との対応関係

先述した通り本資料は、「大正二年写真目録」および「ガラス乾板目録」とほぼ対応させることができる。また、多くの写真が『朝鮮古蹟図譜』に掲載されている。それらの対応関係を示した一覧表を作成した。この表を作成する中で明らかになった点の概要を述べる。

まず、本資料と「大正二年写真目録」との対応関係である。両者は番号・内容ともほぼ一致している。ただ、好太王碑の写真のうち3枚（87・90・101）が本資料にはない。そして、「大正二年写真目録」の88番から96番にあたる写真台紙には、「第八七號」から「第九四號」までの番号が振られ、97番からは、再びカードに振られた番号と写真番号が一致する。このことから、これら3枚の写真は、京都大学収蔵後に失われたり持ち出されたりしたのではなく、本資料のカードを作成する時点で、すでになかったものと考えられる。

『朝鮮古蹟図譜』および「ガラス乾板目録」との対応関係

次に、大正二年度朝鮮古蹟調査時に撮影された写真が、どのように管理・利用されたのかの一端を知るために、本資料と『朝鮮古蹟図譜』掲載写真および「ガラス乾板目録」との対応関係を述べる。

大正二年度朝鮮古蹟調査では、楽浪土城・楽浪漢墓や祜蟬碑の調査を通して、楽浪郡・帯方郡に関わる遺跡の存在が広く認識されることになった。また、平壤周辺および輯安における高句麗関係遺跡が数多く調査され、その後の調査研究に大きな影響を与えた（早乙女 2007）。このことは、本資料に含まれる楽浪郡・帯方郡および高句麗に関係する写真の多くが、『朝鮮古蹟図譜』第一巻（1915年）および第二巻（1915年）に掲載されていることから理解することができる。

興味深いのは、これらの掲載写真のガラス乾板のほとんどが、国立中央博物館の目録に見当たらない点である。具体的には、写真目録の鎮南浦（写真番号 31～45、梅山里四神塚・大蓮華塚・星塚）、真池洞駅（写真番号 46～64、双楹塚・大塚）、輯安縣（写真 65～83、輯安の遺跡）、好太王碑（写真 84～101）、將軍塚（写真 102～114）、平壤府の一部（写真 272～280、楽浪漢墓）、龍岡郡の一部（写真 285～288、祜蟬碑）の写真である。

また、『朝鮮古蹟図譜』第三卷（1916年）「沃沮（？）時代」の項に掲載された山城（144～152、160～165、243～248）および古墳（153～155、249～259）、『同』第四卷（1916年）に掲載された鉄原郡の石造物（263～271）、『同』第五卷（1917年）に掲載された鉄原郡到彼寺鉄造釈迦座像（261・262）、『同』第六卷（1918年）に掲載された高麗時代の石造物（7～9、11～21）、城郭（187～188）や建造物（231～235）のガラス乾板も、「ガラス乾板目録」には見当たらない。こうした状況証拠からみて、本調査時の写真目録を作成して朝鮮総督府に提出した後、『朝鮮古蹟図譜』第一卷～第六卷を作成するために、必要なガラス乾板が抜き出されたと推定される。

一方、『朝鮮古蹟図譜』第十一卷（1931年）に掲載された朝鮮時代の壇及廟祀、学校及文廟、客舎、王陵、『同』第十二卷（1932年）に掲載された朝鮮時代の仏教建築に関する写真のガラス乾板は、「ガラス乾板目録」の中に確認できる。10年近い空白期間において『朝鮮古蹟図譜』の編集・刊行が再開された時には、朝鮮総督府博物館からガラス乾板を持ち出せなかった、あるいは持ち出さずに済ませることができた事情があったと考えられる。こうした点については、さらに検討を続けたい。

今後の活用に向けて

東京大学が所蔵する関野貞コレクションの中に残された、大正二年度朝鮮古蹟調査事業に関する略報告書や調査カード・図面などの多くは、基本的な整理がなされ（早乙女 2007）、ウェブ上での公開が進められている。国立中央博物館に残されている写真類や関係資料についても、目録の作成、およびウェブ上での公開が進められてきた。これらに加えて、京都大学が所蔵する大正二年度古蹟調査関連資料を、今回ようやく公開することができた。

『北朝鮮満州輯安縣遺物遺跡写真』の個々の写真の多くは、既に知られているものである。しかし、本資料と対応させることで、各写真の撮影時期・撮影者を確定することができる。コロナ禍のために十分な比較検討を果たせていないが、本資料と関野貞のフィールドカードを対応させることで、当時の調査をより具体的に復元することが可能になるだろう。

また、本資料を用いて大正二年度朝鮮古蹟調査で撮影された写真を確定し、異なる機会に撮影された写真と比較検討することで、朝鮮古蹟調査事業の実態の一端を明らかにすることが期待される。

例えば、先述したように『朝鮮古蹟図譜』第二卷には、大正二年度に撮影された平壤周辺の高句麗壁画古墳（梅山里四神塚、大蓮華塚、星塚、安城洞大塚、双楹塚）の写真が多く掲載されている。ところが、壁画の写真の中には、大正二年度の写真と同じアングルで撮影した別写真が存在する。こうした写真は、大正三年に小場恒吉による壁画模写などの機会に、改めて撮影された可能性が考えられる。さらに、整備がおこなわれて入口に門がつけられた様子を示す写真も掲載されていることが指摘されている（早乙女 2007、p.24）。このように、個々の写真の撮影時期・撮影者を明らかにすることで、高句麗

壁画古墳の調査および整備事業がどのように進められ、その成果が『朝鮮古蹟図譜』にどのように反映されたのかを、より具体的に復元することができるだろう。

また、『北朝鮮満州輯安縣遺物遺跡写真』に含まれる高麗時代・朝鮮時代の石造物・寺院建築・仏像などの写真のうち、国立中央博物館にガラス乾板が残されているものの一部は、2014年に刊行された写真集『ガラス乾板からみた北韓の仏教美術』（国立中央博物館 2014）にも掲載されている。同書には、鳥居龍蔵による調査時のものと思われる1911年撮影写真、およびその後の調査によって撮影された写真も掲載されており、これらの写真との比較検討を通して、各調査の目的や各地の古蹟の変遷を明らかにすることが期待される。

以上のように『北朝鮮満州輯安縣遺物遺跡写真』は、日本と大韓民国の複数の機関に分かれて所蔵されている大正二年度朝鮮古蹟調査関係の諸資料を比較検討するための基準資料としての役割を果たしうると考える。今後、本資料がさまざまな形で活用されることを切に望みたい。

参考文献

（日本）

早乙女雅博 2007 「関野貞の朝鮮古蹟調査（二）—大正二年朝鮮古蹟調査略報告—」 『韓国朝鮮文化研究』 第十号

朝鮮総督府 1915a 『朝鮮古蹟図譜』 第一卷（楽浪及帯方郡時代）

朝鮮総督府 1915b 『朝鮮古蹟図譜』 第二卷（高句麗時代）

朝鮮総督府 1916a 『朝鮮古蹟図譜』 第三卷（馬韓時代、百濟時代他）

朝鮮総督府 1916b 『朝鮮古蹟図譜』 第四卷（新羅統一時代 1）

朝鮮総督府 1917 『朝鮮古蹟図譜』 第五卷（新羅統一時代 2）

朝鮮総督府 1918 『朝鮮古蹟図譜』 第六卷（高麗時代 1）

朝鮮総督府 1931 『朝鮮古蹟図譜』 第十一卷（朝鮮時代（城郭・学校・文廟等））

朝鮮総督府 1932 『朝鮮古蹟図譜』 第十二卷（朝鮮時代（佛寺建築其一））

（韓国）

国立中央博物館 1997 『유리원관 목록 I』

国立中央博物館 2014 『유리건판으로 보는 북한의 불교미술』 (국립중앙박물관 소장 유리건판 2집)